

# がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第 11 号

平成 17 年 1 月 1 日発行

発行

愛知県がんセンター

Tel.052-762-6111代

## 基本理念

私たちは病む人の立場にたって、最新の研究成果に基づく、最良の心あるがん医療を提供します。

*The mission of Aichi Cancer Center is to provide patients suffering from cancer with the best, compassionate treatment and care based on leading-edge cancer research.*

## ごあいさつ

1964年12月に創立された愛知県がんセンターは不惑の40年目に入りました。日本でがんが死亡原因の第一位となったのは1981年ですから、その17年も前に、がん患者の増加を見越し、自治体としては始めて、がん対策を目的としたすばらしい専門施設を設立した故桑原幹根知事や当時の関係者の慧眼と英断には、今更ながら畏敬の念を禁じえません。

ご存知のように、がんは今なお増え続けています。我ががんセンターは、これからも感うことなく病院と研究所が両輪となって、がんの克服を目指して皆さんのお役に立つよう努力して参ります。一昨年制定した「基本理念」、「基本方針」、「患者さまの権利」にしたがい、患者さんの立場に立ち、最新で最良のがん医療の提供に務めます。これらの姿勢は、昨年日本医療機能評価機構に評価され認定されました。そして、下記のようにがん専門病院の第一位にランクされました。また、つい最近、高度先進医療として、話題の分子標的薬イレッサが効くか否かを予め遺伝子で予測する検査を全国に先駆けて開始しました。



分子標的薬はがんの原因となっている遺伝子に働く理想の薬です。白血病の一部では、すでに驚異的な治療成績をあげています。この分子標的療法により、がんが薬で治るようになる時代が来るのもそう遠くはないかも知れないと期待しています。

最新で最良のがん医療の提供とがん克服のための研究には、残念ながら今の保険制度だけでは不十分です。これからも、県民の皆さまのご理解とご支援を心よりお願いいたします。

愛知県がんセンター 総長 大野竜三

## ●「がん治療実力病院全国第一位にランク」

日本経済新聞社ががん治療を行う全国の主要病院を対象にアンケート調査を実施、その結果を評価したところ、回答のあった233施設のうち、愛知県がんセンターが全国第一位にランクされました。

評価は、①5年生存率や死亡率、平均在院日数などの「治療成績」②医療の質を高める取り組みの充実ぶりを示す「過程」③専門医の配置や治療などの充実ぶりを示す「構造」の3部門でそれぞれ得点化し、総合して評価したものです。

●大野竜三総長「M.D.アンダーソンがんセンター2004年度版優秀同窓生賞」を受賞！

大野総長は現在がんセンター全米ランク第一位のM.D.アンダーソンがんセンターにおいて、白血病化学療法の臨床研修を行い、帰国後も、白血病化学療法をライフワークとし、日本の白血病治療のEBM作りに貢献、かつては不治の病であった白血病を治癒可能な疾患とするのに寄与してきました。

今回の受賞は、このような業績に対して、国際的にも高く評価されたものといえます。

[このページの先頭へ](#)

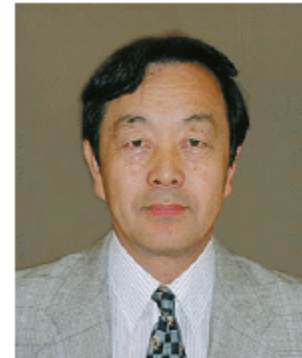
**Aichi Cancer Center News**

**胃がんの予防と遺伝子診断**

研究所からの報告

ピロリ菌と胃がんの関係が注目されています。私たちは世界に先駆けてスナネズミ胃癌モデルを開発しました。このモデルを用いて、ピロリ菌は胃がんの発生を促進させ、その除菌は胃がん発生率を大幅に減少させる事を明らかにしました。食塩摂取はヒト胃がんの危険因子ですが、ピロリ菌は食塩より強力な胃がん発生の促進効果があります。さらに両者に相乗的効果があり、ピロリ菌感染者が高濃度食塩食を取ることが最も危険であることを実験的に実証しました。

胃がんの再発は目に見えない小さな転移(微小転移)が原因です。腹腔内の微小転移を高感度に早期に検出できる遺伝子診断法を病院消化器外科と共同で開発しました。現在、高度先進医療として認可され、一部ではこれをもとに術後の治療方針を決めています。また胃がんの肝転移は極めて予後不良ですが、分子標的治療薬が著効を示す場合があることを動物実験で突き止め、臨床研究に向けて準備を開始しています。



研究所

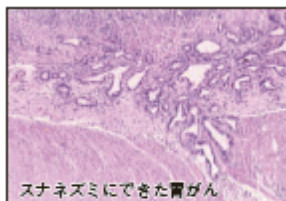
腫瘍病理学部

部長 立松正衛

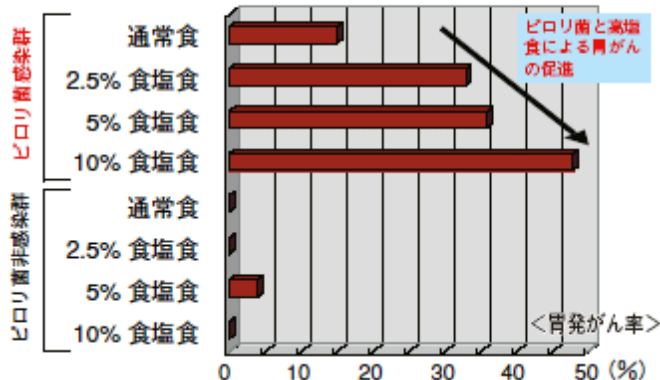
**胃がんの促進要因**



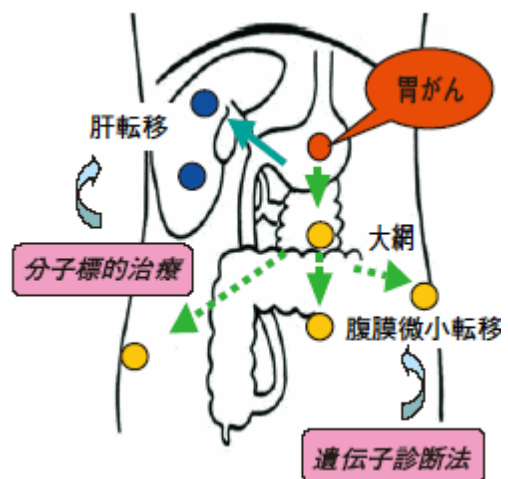
ピロリ菌感染モデルのスナネズミ



スナネズミにできた胃がん



**胃がんの転移再発に対する診断法と治療法の開発**



## 総合防災訓練を実施しました。

平成16年11月9日に、千種消防署と合同で地震発生から2次災害による火災を想定した総合防災訓練を実施しました。

がんセンター職員による自主防災訓練は、震度6弱の地震が起きた想定で、激甚災害による緊急活動隊の編成、7階東病棟から出火し、初期消火・通報・避難・誘導に、更に周辺住民及び病棟患者負傷者のトリアージ活動を行いました。

また、消防署によるはしご車や屋上から5階病棟へ降下しての救助活動が行われ、最後は一斉放水で締められ、全職員の防災意識が高まった訓練となりました。



[このページの先頭へ](#)

## Aichi Cancer Center News

### 病院からの報告

## 質の高いCT検査を！



病院  
放射線診断部

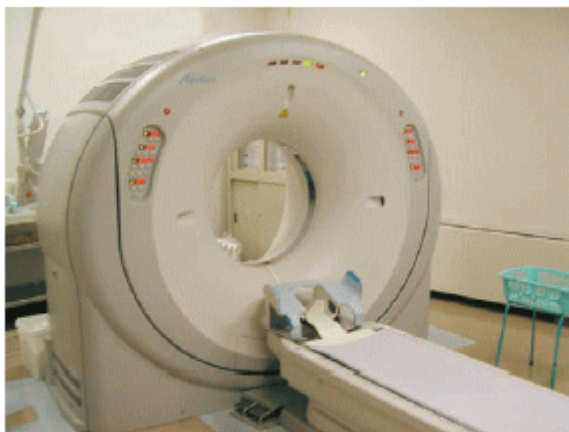
部長 稲葉吉隆

放射線診断部の主たる業務の一つにCT検査があります。CT装置は現在広く普及しており、最新のマルチスライスCT(多検出器型らせんCT)が導入されている病院も多くなっています。

CT検査は通常スライス厚10mmの断面を作成して診断しますが、病気の部分を更に5mm、3mmと薄くし、また拡大して観察することで詳細な診断が可能になります。また造影剤を使用した造影CT検査においても、撮影のタイミングによって見え方が変わってきます。それならば「すべてのCT画像を薄いスライス厚で作成し、また造影検査は何回も撮影すればよいじゃないか？」という考えもありますが、それはあまりにも乱暴すぎるのではないのでしょうか？

当院ではCT装置1台に1人ずつの放射線科医が担当して検査を行うことにより、患者様ひとりひとりにあった必要十分な検査を計画し施行しております。またCT写真も医師みずから適切な条件(診たいところが一番よく観察できる条件)で作成することにより、診断価値のある質の高いCT検査を目指し実践しています。

### 8列マルチスライスCT



### CT操作室



## 診察医の紹介 今回は、放射線診断部です。

放射線診断部はCT、MR等を用いた画像診断の他、IVR(インターベンショナル・ラジオロジー)と呼ばれる画像誘導下低侵襲治療を行っています。カテーテルを用いた動脈塞栓術などの血管内治療や、体外から針を刺すことによるラジオ波凝固療法がこれにあたり、腫瘍に対する有用な局所療法として注目されています。



[このページの先頭へ](#)

## Aichi Cancer Center News

### 主な診療案内

平成17年1月1日現在の外来診療担当一覧です。

受付時間: 午前8時30分から午前11時30分まで  
(自動再来受付機) 午前8時から午前11時30分まで

診療科	月	火	水	木	金
総合初診	山雄	杉浦 <sub>孝</sub>	山雄	森島・大野	大熊
消化器内科	山雄(初診) 田近・水野	山雄(初診)・ 水野・河合・澤木	山雄(初診)・ 高橋・澤木	中村・高橋・ 澤木(初診)	中村(初診)・ 田近・河合
呼吸器内科	樋田	杉浦 <sub>孝</sub> ・吉田	堀尾	杉浦 <sub>孝</sub> ・樋田・堀尾	吉田
循環器	波多野	大熊	大熊	波多野	大熊
血液・細胞療法 薬物療法	小椋(初診)・ 鏡味・田地・尾山	森島(初診)・ 小椋・神谷	鏡味(初診)・ 田地・尾山	森島(初診)・ 小椋・神谷	鏡味・田地(初診)・ 神谷(第2・4)・ 尾山(第1・3・5)
頭頸部外科	長谷川・小川		長谷川・兵藤	(予約のみ) 寺田(第1・3) 小川(第2・4) (第5交代制) 長谷川・寺田 小川・兵藤	寺田 兵藤(第2・4予約のみ)
胸部外科	(予約のみ)	(予約のみ)	(予約のみ)	波戸岡	光富・篠田・ 波戸岡・森
乳腺外科	亀井・水谷・ 岩田(初診)	岩田・亀井・ 水谷(初診)	岩田・遠山・ 亀井(初診)	岩田・水谷・ 遠山(初診)	亀井・遠山・ 岩田(初診)
消化器外科	山村(第2・4)・ 伊藤(第1・3・5)・ 小森	金光・小島	加藤・山村・清水	安井・平井・伊藤	(予約のみ)
整形外科	杉浦 <sub>英</sub> ・山田	(予約のみ) 杉浦 <sub>英</sub>	山田		杉浦 <sub>英</sub> (第1・3・5) 山田(第2・4)
泌尿器科	林		脇田	林・脇田	
婦人科	葛谷・那波	葛谷・中西・那波	那波・中西	葛谷・那波・中西	中西

放射線診断部	稲葉(初診)・佐藤		稲葉(初診)・山浦		稲葉・林
放射線治療部	不破・古平・立花	古平・古谷	不破・古谷	不破・古谷・立花	不破・古平・立花

※ 医師名の後の数字は、月の週を表します。 ※ 変更(休診)等がございますので、お電話でご確認ください。

※ 再診予約制: 診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。

052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始除く)

Topics



## しょうじょうるてん ブロンズ像「生生流転」が寄贈されました!

山本眞輔氏作の彫刻「生生流転」(ブロンズ像)が、同氏の奥様である山本澄江様より寄贈され、がんセンター設立40周年記念日となる平成16年12月1日(水)に、病院1階アトリウムで森副知事出席のもと除幕式にて贈呈されました。このブロンズ像は、「生命の尊さ」を製作課題としており、多くの患者さんの癒しになることを願っています。

所在地 〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1-1

TEL.(052)762-6111

URL; <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

FAX.(052)764-2963